

矢作川流域圏懇談会通信

R5 市民部会編 vol.4



発行日：令和6年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第5回市民部会まとめの会を開催しました！

第5回市民部会まとめの会では、令和5年度の活動のふりかえりと、次年度の活動計画・目標について話し合いました。

日時：2024年1月10日（水）14:30～16:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 第1研修室

参加者：13名（内オンライン参加3名） ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 話し合い

(1) 今年度の実績・ふりかえり

今年度の活動目標に対する進捗状況について報告されました。主な報告事項を以下に記します。

① 公開講座の実施に向けた計画・準備

- ・「流域とのつながり」を流域の方々に伝えることを目的に2月12日豊田市産業文化センターにて公開講座を実施します。公開講座のタイトルは、「川がっなく 私たちの未来 ～知らなかった山・川・里・海 のつながり～」としました。
- ・基調講演2題を設定し、その後車座形式のディスカッションを行う。2月1日の部会連携調整にて、公開講座の具体的な内容や進行について決めます。

基調講演Ⅰ：富山理論から「健全な流域圏」を考える（松沢孝晋氏）

基調講演Ⅱ：「流域単位の地域理解」をわかりやすく伝えていくために（神田浩史氏）



公開講座のチラシ

② 地域部会合同でのバスツアー

- ・9月13・14日に地域部会合同のバスツアーを実施し、2日間で述べ32人が参加しました。他部会に紹介した矢作川流域の団体や場所を巡り、地域部会間の共通認識の隔たりを補完しました。

③ 新たなつながりに向けた活動

- ・流域連携イベントとして、矢作川感謝祭、いい川・いい川づくりワークショップ in 東北、三河湾大感謝祭に参加しました。
- ・オーガニック給食の推進に向けて取り組んでいる Food for Children 愛知・安城の関係者と交流を行いました。
- ・多摩川源流ツアーに参加し、多摩川流域懇談会との交流を行いました。

(2) 次年度に向けた活動計画・目標

次年度に向けた活動計画・目標について以下の内容を話し合いました。

- ・令和5年・6年の活動目標の確認と、今後の展開等について
- ・9月に実施したバスツアーの課題を踏まえた、次年度のバスツアーの目標や内容等について
- ・2月に実施する公開講座からの展開を踏まえた、今後の公開講座の方針やテーマ等について



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●話し合い：今年度の実績・ふりかえり・次年度に向けた活動計画

■バスツアーについて

- ・バスツアーでは、各部会がどういう思いで流域圏の活動に取り組んでいるのかを知ることができた。(光岡)
- ・バスツアーについては、「意見交換の場がほしい」という意見が出ていた。(光岡)
 - ▶バスツアーはよかったと思うが、認識を深めるために語り合う場が必要と思った。合同部会のような形を市民部会から提案したら良いと思う。(近藤)
 - ▶現場を見るというのはすごく大事で、バスツアーで現場を見られてよかったと思う。山・川・海で1回ずつ現場を見て、課題などを話し合うとよい。(山本)
 - ▶合同部会でのWGを1回ずつ設定できれば、今検討している趣旨に合ったものができるかと思う。(光岡)
 - ▶山が荒れるという問題は全部につながっている。そういうのを山・川・海でつないでいくと、問題点が流域に広がっていく。(井上)
- ・次年度まだ見ておかないといけない現場が地域部会にあるのかどうかを把握したうえで、現場を見る機会をバスツアーや部会の中で行えばよいと思う。(近藤)
 - ▶各部会の座長に判断していただくという形でよいと思う。(光岡)
 - ▶現地で意見が出されても、そのままにしている部分があると思う。バスツアーを行ったことで流域の視点をもって、もう一度現地を見て話し合うことで議論が進むと考える。(沖)
 - ▶何を見せたいかを各部会で考えてもらってから、バスツアーあるいは部会でやるとよいかと思う。(高橋)
 - ▶次年度以降のバスツアーで、部会間で認識を深めていくテーマについて意見はあるだろうか。設定したいテーマを各部会にも投げかけて、活動ができればよいと思う。(光岡)
- ・どんな土壌が山や里、海に必要なのかなど。有機農業も一つの技術で、じゃあどんなやり方があるのかなど。(井上)
- ・「食べること＝農業」なので、そういうところから一般の方にも考えていただけるような機会やイベントをやっているか広がりができるかと思う。(藤永)
- ・有機農業、付加価値のある農業、環境にやさしい農業などから、農家と共に広げていく会にしていきたい。(藤永)
- ・海に栄養がなくなってしまって、鳥などの生き物もいなくなっている。矢作川流域圏でも、山から海までの栄養問題をもっと考えていただければと思う。(高橋)
 - ▶栄養塩については、量は少ないが海底湧水のほうが濃度は高い。見える栄養塩と見えない栄養塩の話をしていくと、森林や農地の土壌の話につながっていく。(井上)
 - ▶栄養塩だけだと下水のみの議論になる。それに合わせて、流域全体のつながりの話しをすると良い。(近藤)

■公開講座について

- ・この10年で新たに出てきた課題を取り扱ってきたのがこれまでの公開講座で、マイクロプラスチック、ネオニコチノイド系農薬、海の貧栄養をテーマとした。そして今度は流域全体の問題。この流域全体のことを考えるという流れはバスツアーにも関係してくる。(近藤)
- ・2月12日の公開講座では、山・川・農地・海のつながりから流域全体をみて、私たちはどうしていくかという問題提起する形で構成していく予定。100年先、200年先までの持続の可能性を考えていきたい。(松沢)
- ・富山理論は1970年代あたりの日本をみているので、それにプラスして、プラスチックごみ、農薬、海の貧栄養の問題など現代社会で発生している問題についても考えていきたい。(松沢)
- ・みどりの食料システム戦略が始まってから4年目となった。子どもたちに安全な食料を提供するというのは市民の理解を得られやすいと思う。今回の公開講座も自信をもっていろんなところに働きかけをしていきたいと思う。(沖)
- ・山・川・海の現状を生態系の視点から話しができる方がいないかなと思った。(光岡)
 - ▶本来あるべき土地の適正利用、潜在的な目線を見た土地の適正利用を考えていかないと持続性という点で危ないと感じている。それを生態系に関連させて話すのも、山・川・海がつながってくるのでよいと思う。(松沢)
 - ▶山の生態系の問題。集落や水田・畑の周りの森林をどうするかという問題。日陰になって田んぼができないところが多発している。これは議論をしたいし、さまざまな知恵がほしいと思う。(山本)
 - ▶かつては減反で田んぼが放置されると湿地となり、鳥がたくさんいた。今は転作されるので、そこに生息する生き物もどんどん変わってきている。(高橋)
- ・今回の公開講座で富山和子氏を取り上げる。こういう公開講座がやれることにワクワクしている。今回を第1弾として、次にどうつなげていくかを議論したい。(沖)
 - ▶山から海まで全部がつながっている。そういうことの議論は、次の公開講座で議論しつくせるとは思わないし、議論しないといけないことが山ほどある。解決するかどうかではなくて、認識することが大事だと思う。(近藤)
 - ▶流域の問題を知ってもらって、議論して、それを知った人がどうやって解決に向けて動いていくかが大事である。これは継続して、2回・3回と議論していく内容かと思う。(近藤)
- ・最近注目している山地酪農を実践している方は非常に精力的で、山地の回復にも貢献している。公開講座に誘って発言していただき、我々につながるができることよいと思う。(山本)
 - ▶車座形式でディスカッションをやるので、そういう方をお誘いしていくとよいかと思う。(沖)
 - ▶今後の議論では、2月の公開講座の発展形でいろんなテーマが出てくるとよい。今回の公開講座が、山・川・海のつながりなど俯瞰的な視点を通じて、現在活動されている方の話から深掘りしていければよいかと思う。(光岡)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

